

市立学校の授業時数に関する調査結果について

令和7年1月に、市立宮崎中学校において、45分授業を導入したことにより、3年生の年間の総授業時数が19時数不足する見込みであることが確認されたため、同月24日（金）から2月7日（金）までの間に、全市立学校の授業時数について調査を行いました。

その結果、市立中学校につきましては、宮崎中学校以外の次の6校で、3年生の年間の総授業時数が不足する見込みであることが確認されたため、時間割を変更し、3月に授業時間を追加する等により必要な授業時数を確保してまいります。

なお、小学校、高等学校、特別支援学校においては、年間の総授業時数が不足する学校はありません。

1 調査結果

(1) 年間の総授業時数が不足する見込みであることが確認された学校とその授業時数（3年生のみ）

- ・玉川中学校（5時数）　・西高津中学校（10時数）　・有馬中学校（15時数）　・宮前平中学校（10時数）
- ・稲田中学校（7時数）　・菅中学校（4時数）　計6校

(2) 授業時数の取扱い

- ・学校教育法施行規則で定められた中学校の授業の1単位時間は50分とされ、年間の総授業時数は1,015時数とされています。
- ・教育課程の編成に当たっては、各学校において、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を選択し、各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を作成したり、児童生徒の生活時間と教育の内容との効果的な組合せを考えたりしながら、授業時数を適切に定めることとされており、学習指導要領においても、年間の総授業時数を維持しつつ、授業の1単位時間は、各学校において、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成することが認められています。

(3) 年間の総授業時数が不足する見込みであることが確認された理由

生徒の活動時間の確保をはじめ、教員の業務時間や放課後の時間をより多く確保するために、また、特に3年生の進路指導等を教員が丁寧に行うために、45分授業を実施してまいりましたが、3月12日（水）に卒業式を迎える3年生は、1、2年生よりも授業日数が8日間少ないことから、年間の総授業時数（50分授業に換算して1,015時数が必要とされている。）が不足する見込みであることが確認されたものです。

(4) 年間の総授業時数確保のための方法（複数対応あり）

- ア 入試以降に予定していた短縮授業日に追加で授業を設定する・・・6校
- イ 午前授業日としていた日に午後の授業を設定する・・・・・・・・・2校
- ウ 5時間授業日に6時間目を設定する・・・・・・・・・2校
- エ 帯授業（モジュール）を設定する・・・・・・・・・1校
- オ 学年末テストの後に授業を設定する・・・・・・・・・3校

※ 帯授業（モジュール）とは、計算や漢字の練習などを毎日10分程度行う授業の形態で、10分×5日分を1時数として計算するものです。

2 今後の対応及び再発防止策

- (1) 授業時数が不足する見込みであることが確認された中学校は、今年度、上記1（4）ア～オの方法により、定められた各教科等及び年間の総授業時数を確保します。
- (2) 年度当初に、各市立学校は、教育委員会事務局に授業時数の計画表を提出していますが、次年度以降、年度途中において教育委員会事務局が調査を行うとともに、定期的な学校訪問等において、各学校の授業時数の確保の状況を確認するなど、支援・指導してまいります。

【問合せ先】 川崎市教育委員会事務局学校教育部指導課 山本
電話 044-200-3318